

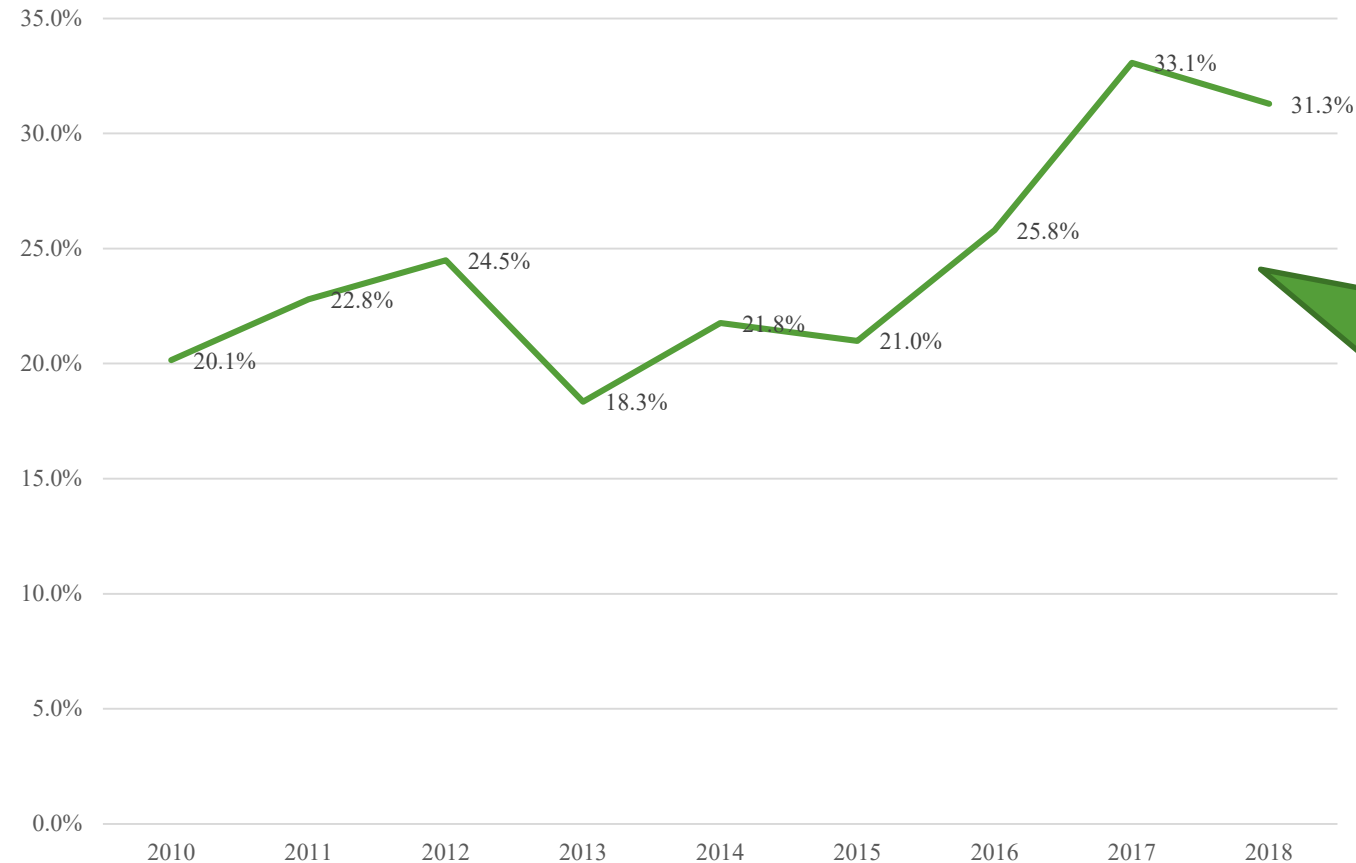
OA方針策定後のリポジトリ運用

安達 修介（横浜国立大学附属図書館）

策定までの道のり

2016年6月	リポジトリ運営委員会で研究成果公開に関するポリシーの策定に向け検討を開始すると提言
2016年12月	リポジトリ運営委員会で他機関のOA方針に関しての状況報告
2016年12月～ 2017年2月	各部局教授会でOA,OA方針に関する説明
2017年6月	リポジトリ運営委員会でOA方針(案)作成WG立ち上げ WGメンバー:図書館長・各部局教員・担当係職員・URA(オブザーバ)
2017年7月～8月	策定WGによる方針(案)作成会議 (全2回開催)
2017年9月	WG作成OA方針(案)をリポジトリ運営委員会で報告 各部局での検討願い、質問・意見募集
2017年10月	OAに関する勉強会として外部講師による講演会実施
2017年12月	OA方針(案) リポジトリ運営委員会承認
2018年2月	OA方針 教育研究評議会承認
2018年4月	OA方針 施行

横浜国立大学の各年発表論文の オープンアクセス率



OA方針の策定が
OA率の変動に影響を
及ぼしたかどうかは
明確には分からない

Web of Science Core Collection: SCI-EXPANDED, SSCI, A&HCI, CPCI-S, CPCI-SSH, ESCI(2015-)
og=(Yokohama National University) and PY="2010-2018" and DT=("Article" OR "Review"), 2019-10-08

オープンアクセス率を上げるための取り組み①: 教員への論文ファイル提供依頼

①所属教員のWeb of Science新着論文がOAになっているか調査

図書館



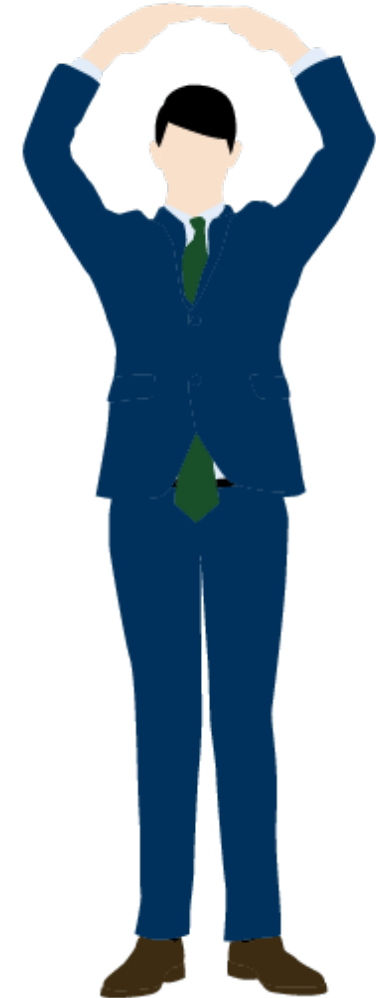
②OAになっていないものについて、
月に一度論文ファイルの提供を依頼(メール)



③ファイル提供



④提供されたファイルをリポジトリに登録



教員

オープンアクセス率を上げるための取り組み①: 教員への論文ファイル提供依頼

【YNU附属図書館】学術情報リポジトリへの論文ファイル提供のお願い（2019年09月）



ir-admin@ynu.ac.jp

2019/09/26 (木) 11:46

①@ynu.ac.jp; ir-admin@ynu.ac.jp ✉

先生

いつもお世話になっております。
附属図書館機関リポジトリ担当 安達と申します。

附属図書館では、本学の研究成果等公開のためのサービスとして、
学術情報リポジトリ (<https://ynu.repo.nii.ac.jp/>) を公開しております。
これは、本学の研究成果を蓄積・保存し、学内外に無償で発信・提供することにより、
教育研究の発展に資するとともに、広く社会に貢献しようとするものです。

また、2018年2月に策定（2018年4月施行）されました横浜国立大学オープンアクセス方針では、
2018年4月以降発表の研究成果を、以下のいずれかに類する方法でオープンアクセスと
していただくことになっております。

- ・横浜国立大学学術情報リポジトリで公開する
 - ・オープンアクセスジャーナルで公開する
 - ・他機関等の機関リポジトリで公開する
- （横浜国立大学オープンアクセス方針）https://ynu.repo.nii.ac.jp/?page_id=73

この度、Web of Science新着情報や研究者総覧等掲載情報よりご発表の論文を確認し、
著者最終稿版の論文ファイルご提供のお願いのご連絡をさせていただきました。
上記の方針の対象となり、オープンアクセスでないものに関し、
本学リポジトリでの公開のため、以下の論文の【著者最終稿版ファイル】の
ご提供にご協力いただけないでしょうか。

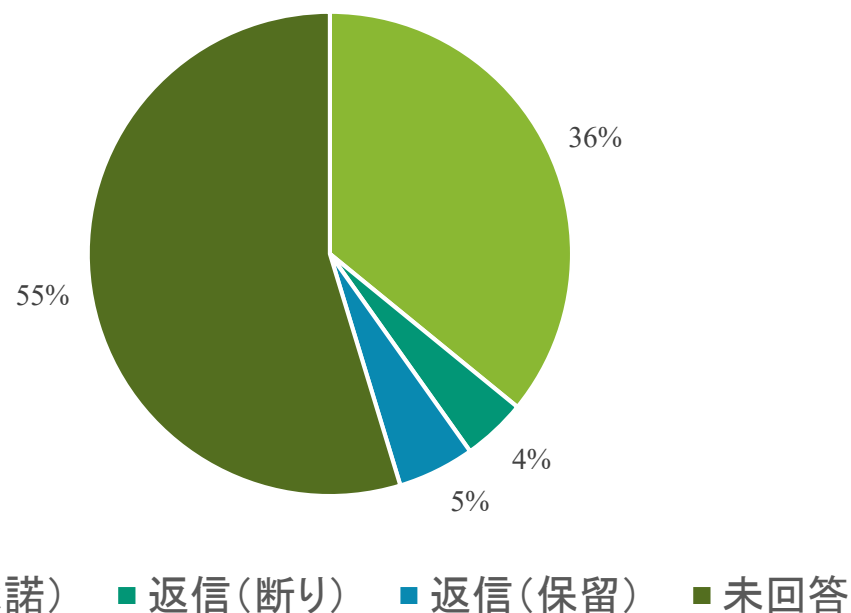
(1) Dynamic paraxial component localization during spermatogenesis

実際のメール文面

オープンアクセス率を上げるための取り組み①: 教員への論文ファイル提供依頼

依頼メールへの反応
(2019年4月-9月)

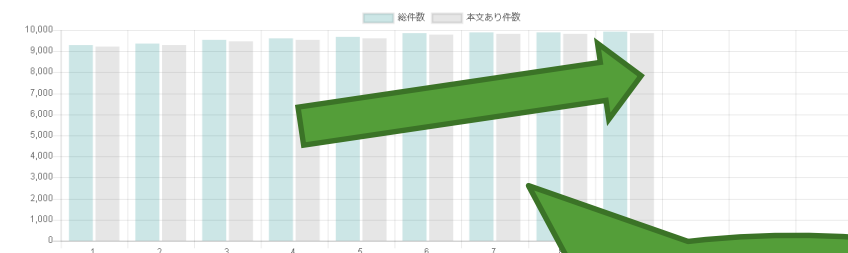
反応が100%あるわけ
ではないが……



IRDB 検索 コンテンツ統計(全体) マイコンテンツ コンテンツ統計(ユーザ) ユーザ情報 ログアウト English

月別件数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
総件数	9,307	9,379	9,536	9,603	9,680	9,864	9,891	9,896	9,933	0	0	0
本文あり件数	9,235	9,305	9,464	9,543	9,612	9,791	9,818	9,823	9,859	0	0	0



総件数	本文あり件数(率)
9,933	9,859 (99.26 %)

4月から増加した330件の
うち約4分の1は提供依頼
に応じて提供されたもの

教員の反応

- ・「リポジトリってなんですか？」
- ・「著作権は出版社に譲渡しています」
- ・数か月経ってから連絡をくださることも
- ・依頼後、依頼対象でなかった非OAの
自著論文を送ってくださる先生も

オープンアクセス率を上げるための取り組み②: OA方針の宣伝

URAの先生に方法を相談するも……



「この広報をすれば
OA方針が一発で浸
透する」という広報
はないですね。

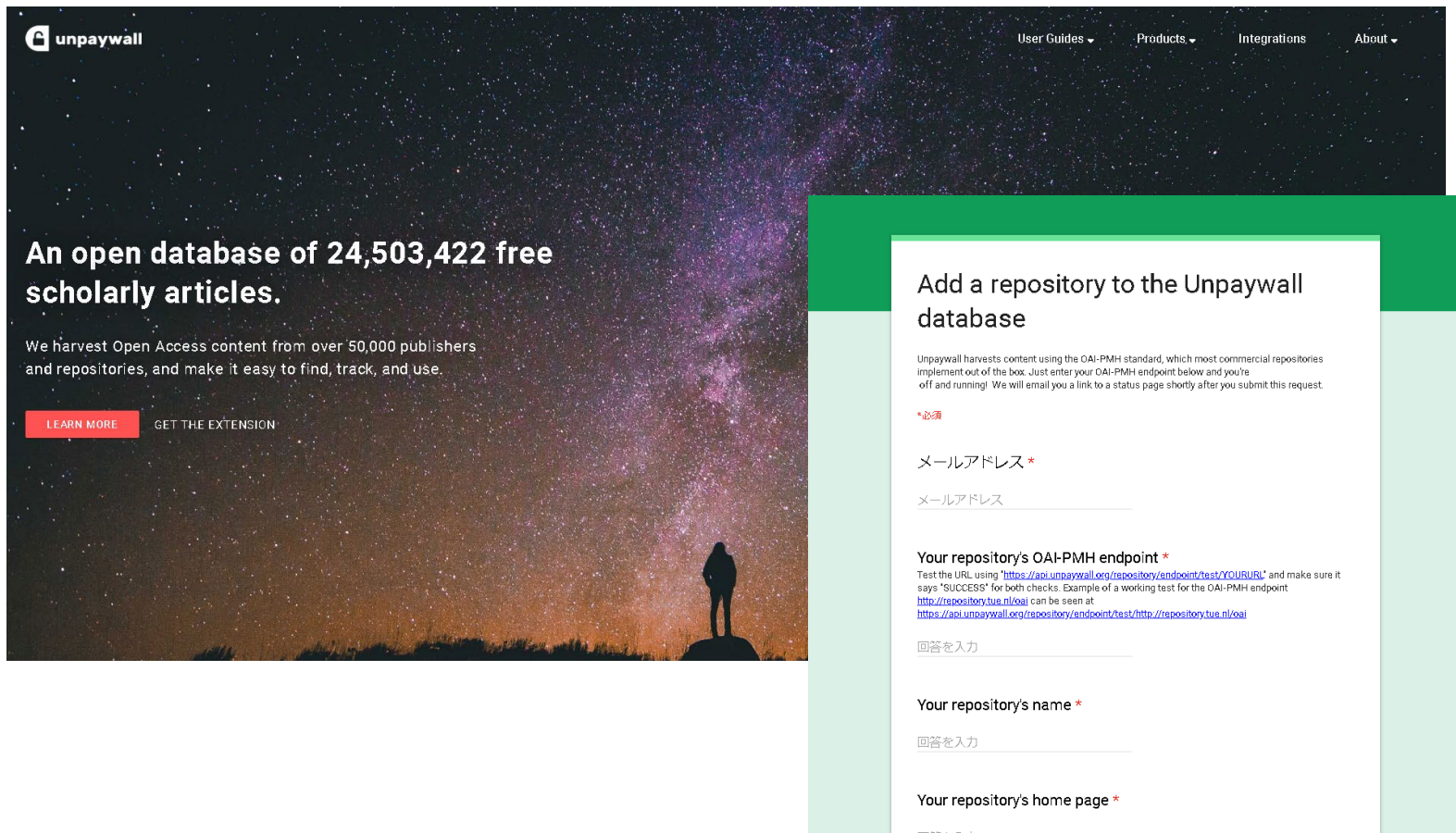


今後の取り組み①:

継続して論文ファイル提供依頼を続ける

- ・ファイルを送付してもらうのではなく、
アップロードしてもらう形にする
- ・メールの文面を変更する

今後の取り組み②: オープンアクセス捕捉率を上げる



Unpaywall

<https://unpaywall.org/>

- Our Research (旧ImpactStory) の提供するサービス
- 申請すると、リポジトリに掲載している査読済みの著者最終稿の情報が、Web of ScienceにOA情報として捕捉されるようになる
- 申請は無料

今後の取り組み②: オープンアクセス捕捉率を上げる

The screenshot displays the BASE website interface. At the top, there are navigation links for 'Basic search', 'Advanced search', 'Browsing', and 'Search history'. The main header features the BASE logo and the text 'Bielefeld Academic Search Engine'. Below the logo is a search bar with the text 'Search 153,180,667 documents from 7,576 sources'. On the left side, there is a sidebar with links for 'About BASE', 'What is BASE?', 'Content sources', 'Statistics', 'Team', 'Contact', and 'Legal notice'. The main content area shows the 'Suggest new source' form, which includes fields for 'Name of source*', 'URL of source*', 'Type / Content*', 'Open Access*', 'Open Access set', 'OAI base URL*', 'Repository software', 'Classification', and 'Further information'. There are also checkboxes for confirming the source is not indexed and for validating the OAI interface. On the right side, there are links for 'Further information' (Golden rules for repository managers) and 'Quick access' (Help, FAQ, Suggest source).

BASE

<https://www.base-search.net/>

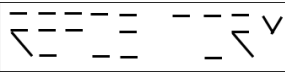
- ・ビーレフェルト大学図書館が運営しているデータベース
- ・ここに機関リポジトリが収録されていると、ImpactStoryにGreenOAとして捕捉されやすかった？

おまけ: オープンアクセスウィーク2019企画 「志田館長からの挑戦状 オープンアクセスウィークスペシャル」

解けるかな？

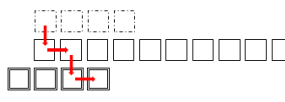
志田館長からの挑戦状
～オープンアクセスウィークスペシャル～

Q1.
(例) 名前 - ナトリウム = "me"
(1) ゴール - アルミニウム
(2) 古い - 酸素
(1) + (2) = ?
A1.

Q2.


A2.

Q3.
草+↑=サ、空+↓=エのとき、
①比+→
②今+↓
③急+↑
①②③を続けて読んだものを英語にすると？
A3.

LAST QUESTION

LAST ANSWER:

カウンターでLAST ANSWERを見せて、
オリジナルグッズをゲットしよう！
※対応時間は平日9:00～17:00です。

表面

OPEN ACCESS WEEK 2019

Open for Whom?
Equity in Open Knowledge

OCTOBER 21-27

オープンアクセスウィークとは？

国際オープンアクセスウィークとは、オープンアクセス(OA)の推進キャンペーン期間で、毎年10月に行われています。
2019年のテーマは、"Open for Whom? Equity in Open Knowledge (誰のためのオープン化？ オープンな知識における平等を考えよう)"です。

そもそもオープンアクセスとは？

オープンアクセスとは、学術雑誌論文等をウェブ上で無料公開し、誰でも利用可能な状態にすることです。論文をオープンアクセスにすると、世界中の人に読んでもらえる、引用してもらえる可能性が高くなる、などのメリットがあります。

オープンアクセス化の方法は？

オープンアクセス化の方法には、グリーンロードとゴールドロードの2種類があります。

③グリーンロード:
学術機関リポジトリなど、インターネット上の電子アーカイブに研究者自身が自著論文を掲載する「セルフ・アーカイブ」によってオープンアクセスを実現する方式です。
横浜国立大学にも学術機関リポジトリがあります。また、オープンアクセス化の原則について定めたオープンアクセス方針が策定されています。
横浜国立大学学術機関リポジトリ : <https://ynu.repo.nii.ac.jp/>
横浜国立大学OA方針 : https://ynu.repo.nii.ac.jp/?page_id=73

⑥ゴールドロード:
誰でも無料で読める学術雑誌(オープンアクセス誌)に論文を投稿することでオープンアクセスを実現する方式です。

問い合わせ先:
横浜国立大学附属図書館機関リポジトリ担当
ir-admin@ynu.ac.jp

裏面